



かたぐい



令和5年度
第56号

2024. 1. 24

学校教育目標 夢ふくらませ 心かがやく

「避難訓練(積雪期火災)」

22日(月)に積雪期の火災を想定した避難訓練を行いました。

積雪期の避難では、夏季とは異なる点がいくつかあります。夏季であれば、地震であれ火災であれ、できる限り短時間で素早く校舎外に避難することが最優先です。けれども、冬季かつ積雪期には、訓練ではなく実際に校舎外に避難した場合、短時間で校舎内に戻ることができるとは考えにくいので、火災等の状況にもよりますが、時間がかかっても防寒具をしっかりと身に付けてから避難することが必要になります。同様に、内ズックのままで避難してしまうと、雪が積もっている状態では、あっという間に足が冷たくなって動けなくなってしま



うため、長靴などを持って(履き替える余裕があれば履き替えて)避難します。また、避難経路も考えなくてははいけません。夏季は大丈夫な経路でも、積雪期になると雪で通れなかったり、通れたとしても屋根からの落雪の危険性があつたりと、慎重に経路を選択しなくてははいけません。

避難訓練には、大きく3つのねらいがあります。それは、『①子どもが避難の仕方を覚える。②教職員が避難の仕方を確認する。③管理職が的確な指示を出して教職員と子どもを動かす。』です。季節や状況によって常に変化する避難方法や避難経路。それらを教職員も子どもたちの的確に判断、選択、行動できるようになるために行われているのが避難訓練です。

今回の訓練でも、子どもたちは、指示をしっかりと聞き、「おかしも」(おさない・かけない・しゃべらない・もどらない)の約束をしっかりと守り、素早くかつ安全に避難することができていました。

また、今回は避難後に全員が「煙道体験」を行いました。火災発生時に落ち着いて避難できるよう、テント内に煙を充填し、煙の中の避難を疑似体験することが目的です。もちろん、人体に無害な煙のようなものを使っているので、吸い込んでも苦しくなったり咳き込んだりすることはありません。しかし、かなりの濃さで視界はかなり限定されてしまいます。子どもたちも、煙が充填すると周りがまったく見えなくなることを実感できたようでした。

消防士の方からは、煙の中を非難する際の注意点について、「深い呼吸をしまい煙を多く吸い込むことになるため、むやみに大きな声を出したり、慌てて騒いだりしない。」「煙の中を避難する際は、静かに必要最小限に呼吸しながら歩行する。」「避難する際は、ハンカチのようなもので口を覆うことが大事で水で濡らす必要はない。ハンカチなどがない場合は、洋服を口に当てても効果がある。」「煙は上に行き、きれいな空気は下の方にあるので、できるだけ低い姿勢で避難する。」と説明してくださいました。

最後に、本校職員と消防士の方との会話から…

消：「煙の中を歩いていったとき、どんなにおいがしましたか。」
職：「甘いにおいがありました。」
※煙道体験で使う煙のようなものには甘いにおいが付けられている。
消：「においがわかったということは、思いっきり煙を吸い込んでいることになります。有毒な煙だったら、あっという間に死んでしまいますよ。」
職：「……。」

